

目次

- 改訂情報
- はじめに
 - 本書の目的
 - 対象読者
 - 本書の構成
- APIリスト
 - APIリストについて
 - JavaEE開発モデル
 - スクリプト開発モデル
- プログラミング
 - 動作概念
 - タイムアウトについて
 - APIの種類と性質
 - プログラム開発における注意点
 - 体験版ライセンスにおける注意点
- チュートリアル
 - 前提条件
 - 環境
 - プログラムの作成
 - JSPプログラムの作成
 - プログラム実行
- エラーコード
 - エラーコード一覧
 - その他メッセージ一覧
- トラブルシューティング
 - 原因と対処一覧
- サポート

改訂情報

変更年月日	変更内容
-------	------

2013/10/11	初版
------------	----

2014/04/01	第2版
------------	-----

はじめに

目次

- [本書の目的](#)
- [対象読者](#)
- [本書の構成](#)

本書の目的

本書ではIM-PDFAutoConverter for Accel Platform を利用する場合の基本的な方法や注意点等について説明します。

対象読者

本書は、開発をスムーズに開始するための手引書となっています。

したがって、実際に IM-PDFAutoConverter for Accel Platform を利用したアプリケーションを開発するプログラマの方が対象となります。

- 以下のいずれかを理解していることが必須となります。
 - JavaEE開発モデル(Java)
 - スクリプト開発モデル(サーバサイドJavaScript)

また、本書は、以下に列挙する技術に関する知識を有することを前提として構成されています。

これらの技術に関して不明な点がある場合、本ドキュメントの内容を正しく理解することが困難になることがありますので、予めご了承ください。

なお、前提知識となる技術に関しては、一般の専門書籍等をご覧ください。

- Javaプログラミング言語
- Java Servlet および JSP
- オペレーティングシステム
- ネットワーク

本書の構成

- [APIリスト](#)
利用できるAPIについて説明します。
- [プログラミング](#)
プログラム開発の際の注意点や、プログラムの方法などを説明します。
- [チュートリアル](#)
本製品のAPI を利用して実際にプログラムを作成する過程を学びます。
- [エラーコード](#)
エラー発生時に返されるエラーコードを説明します。
- [トラブルシューティング](#)
エラーが発生した際の原因と対処方法について説明します。
- [サポート](#)
製品サポートおよび技術情報の公開について説明します。

APIリスト

目次

- [APIリストについて](#)
- [JavaEE開発モデル](#)
- [スクリプト開発モデル](#)

APIリストについて

本製品には、IM-PDFAutoConverter for Accel Platform 専用のAPI リストが付属します。

API リストは、document/apilist.zip にあります。このファイルは、ZIP で圧縮されていますので、任意のZIP解凍ツールで解凍して下さい。解凍するときは、ディレクトリ付きで解凍して下さい。

アーカイブファイルを解凍後 apilist/index.html をブラウザで開くと、API リストを閲覧することができます。

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform には、JavaEE開発モデル 用のAPI が用意されています。

スクリプト開発モデル で開発をする場合は、スクリプト開発モデル のソースコード内でJavaのクラスを呼び出してください。

JavaEE開発モデル

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform は、JavaEE開発モデル で利用可能なJava-API(クラス)を用意しています。

The screenshot shows the 'AutoExRemote' class documentation. The class is located in the package 'yss.autoconverterex.rmi' and extends 'java.lang.Object'. The documentation includes a summary of the class and a table of static fields.

フィールドの概要
static int SEC128BACC_DISABLE 128ビットセキュリティ(アクセス)許可しない
static int SEC128BACC_ENABLE 128ビットセキュリティ(アクセス)許可する
static int SEC128BCOPY_DISABLE 128ビットセキュリティ(コピー)許可しない
static int SEC128BCOPY_ENABLE 128ビットセキュリティ(コピー)許可する
static int SEC128DOCCHANGE_ADDNOTE 128ビットセキュリティ(文書変更)フォーム入力と注釈追加を許可する
static int SEC128DOCCHANGE_ASSEMBLE 128ビットセキュリティ(文書変更)アセンブリを許可する
static int SEC128DOCCHANGE_DISABLE 128ビットセキュリティ(文書変更)許可しない
static int SEC128DOCCHANGE_ENABLE 128ビットセキュリティ(文書変更)許可する
static int SEC128DOCCHANGE_FORMFILL 128ビットセキュリティ(文書変更)フォーム入力を許可する

スクリプト開発モデル

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform は、JavaEE開発モデル で利用可能なJava-API(クラス)を用意しています。

そのため、スクリプト開発モデル で IM-PDFAutoConverter for Accel Platform を利用する場合は、スクリプト開発モデル のソースコード内でJavaのクラスを呼んでください。

スクリプト開発モデル 内でのJavaのクラスの呼び出し方法については、intra-mart 付属のマニュアルを参照ください。

目次

- 動作概念
- タイムアウトについて
- APIの種類と性質
- プログラム開発における注意点
- 体験版ライセンスにおける注意点

動作概念

通常の JavaEE開発モデル スクリプト開発モデル プログラムは、ApplicationRuntime で実行されます。

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform で提供されるAPI も、そのほとんどはApplicationRuntime で動作しますが、実際にPDFファイルを生成するのは PDF変換サーバ(Windows) となります。

以下の方法でPDF変換を行うことができます。詳しくは、APIリストをご覧ください。

No.	メソッド	説明
1	String convert (String inFilePath, String outFilePath)	変換対象ファイルのパスと変換後ファイルのパスを渡して、PDF 変換を行います。いずれのパスもApplicationRuntime側のパスを指定してください。

コラム

PDF ファイル作成の際にサーバ間でネットワーク通信が発生します。したがって、PDF生成処理のレスポンス時間はネットワーク環境に影響を受けます。

タイムアウトについて

PDF 変換サーバに依頼された変換処理は、順番待ち(キュー)の状態となります。

同時に大量のPDF 変換を行う場合は、PDF変換処理のタイムアウトやPDF 変換サーバへの過負荷が原因による接続タイムアウトにご注意ください。

大量のPDF 変換(同時に200件以上)が想定される場合は、PDF 変換処理をキューで管理し順番に処理する等、上位アプリケーション側での対応をご検討ください。

AutoExRemote クラスは、以下3種類のタイムアウトを利用します。

詳しくは、APIリストをご覧ください。

3種類のタイムアウト設定

- 一定時間経過してもPDF変換処理がはじまらない場合
- 一定時間経過してもPDF変換処理が終わらない場合
- 一定時間経過してもネットワークが返ってこない場合

No.	メソッド	説明
1	setBeforeTimeoutSec (int timeoutSec)	変換前のタイムアウト秒数を設定します。PDF 変換依頼を投げてから、PDF 変換処理を開始するまでのタイムアウト時間を設定します。タイムアウト時間を過ぎると、PDF 変換依頼は削除され次の変換処理に移ります。
2	setTimeoutSec (int timeoutSec)	変換後のタイムアウト秒数を設定します。PDF 変換処理が開始してからのタイムアウト時間を設定します。タイムアウト時間を過ぎると、変換処理は削除され次の変換処理に移ります。
3	setTransTimeoutSec (int timeoutSec)	【必須】 SOAPの接続タイムアウト“ミリ”秒数を設定します。短すぎると結果が受け取れません。

コラム

PDF 変換処理のタイムアウトを変更した場合は、intara-mart のセッションタイムアウトについてもご確認ください。PDF 変換処理が完了する前にintra-mart のセッションタイムアウトが発生した場合、変換結果を受け取ることができません。intra-mart のセッションタイム

APIの種類と性質

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform は、JavaEE開発モデル で利用可能なJava-API(クラス)を用意しています。

そのため、スクリプト開発モデル で IM-PDFAutoConverter for Accel Platform を利用する場合は、スクリプト開発モデル のソースコード内でJavaのクラスを呼んでください。

スクリプト開発モデル 内でのJavaのクラスの呼び出し方法については、intra-mart 付属のマニュアルを参照ください。

プログラム開発における注意点

IM-PDFAutoConverter for Accel Platform が提供するAPIで変換元ファイルのパスを指定する際には、AppRuntimeからアクセス可能なパスを指定してください。

作成するPDFファイルのサイズによっては、ネットワーク、APIのレスポンス、PDFファイルがディスク上に完全に書き出されるタイミングが大きく異なる場合があります。

特にサイズの大きいPDFファイルを作成する場合は、十分な時間が経過した後に作成したPDF ファイルにアクセスするようにして下さい。

体験版ライセンスにおける注意点

試用版ライセンスをご利用のお客様は、30～60 日間の試用期間が終了するとPDF作成APIが自動的に利用できない状態となります。

この状態でPDF作成APIを利用したプログラムを実行した場合に、実行時エラーとなります。

その場合は、正規の製品ライセンスを購入いただき、アンインストール後に再インストールしてください。

アンインストール・再インストールの方法は、インストールマニュアルをご確認ください。

目次

- 前提条件
- 環境
 - サーバ環境
 - PDF変換サーバ(Windows) 環境
 - 準備
- プログラムの作成
 - サンプルデータの用意
- JSPプログラムの作成
- プログラム実行
 - 準備
 - プログラム実行
 - 確認

前提条件

このチュートリアルでは、JavaEE開発モデル におけるプログラミングの方法について説明します。

このチュートリアルで利用するAPI は yss.autoconverterex.soap パッケージに含まれるクラスです。

このチュートリアルで作成したプログラムは、C:/temp/sample.doc ファイルをサンプルデータとして利用しますので、サンプルデータを作成して下さい。

このチュートリアルで作成したプログラムは、C:/temp ディレクトリにPDF ファイルを作成します。

環境

チュートリアルを学ぶための環境です。

このドキュメント内では、ここで示す環境を前提として解説しています。

サーバ環境

intra-mart Accel Platform と IM-PDFAutoConverter for Accel Platform が、正常にインストールされていることを前提とします。

PDF変換サーバ(Windows) 環境

サーバには IM-PDFAutoConverter for Accel Platform が正しくインストールされ、APIが正常に動作している状態であることが前提となります。

サーバは WindowsServer2008 R2 で動作しているものとして説明をします。

また、Java はOracle JDK がインストールされているものとします。

準備

このドキュメントではC:\temp をプログラム作成の作業領域として説明しています。

このフォルダが存在しない場合には、予め作成しておいて下さい。

別なフォルダで作業をする場合には、その環境に合わせてドキュメントを読みすすめて下さい。

プログラム作成には、テキストエディタが必要です。プログラム作成のできるテキストエディタをご用意下さい。

プログラムの作成

サンプルデータの用意

C:\temp ディレクトリ内に sample.doc ファイルを作成します。

docファイルを作成するためには、ワードが必要となります。

JSPプログラムの作成

テキストエディタを起動して、以下のプログラムを記述します。

ここでは、作成したJSPファイルを実行します。

この時、ファイル名の太文字・小文字は厳密な意味を持ちますので、注意して下さい。

作成した JSPファイルは、以下のフォルダに保存してください。

ファイル名	保存場所
convert.jsp	%RESIN_HOME%/webapps/{アプリケーション名}/convert.jsp

```
<%@ page contentType="text/html; charset=UTF-8" pageEncoding="UTF-8" %>
<%@ page import="yss.autoconverterex.soap.*" %>
<%@ page import="yss.autoconverterex.soap.com.exception.AutoExException" %>
<%
String src = "C:/temp/sample.doc";
String pdf = "C:/temp/out.pdf";
String outpdf = "";

AutoExRemote ex ;
int sts ;
String docinfname ;
int timeoutsec ;

/* インスタンスを作成 */
ex = new AutoExRemote();

/*****
文書情報、セキュリティ、スタンプの設定
*****/

if( false ) {

if( false ) {
/* 設定済みの文書情報及びセキュリティ設定の名前 */
docinfname = "docinf-name";
}

if( docinfname == null ) {
/* 文書情報を設定 */
ex.setDocInf(
"タイトル",
"サブタイトル",
"作成者",
"アプリケーション",
"キーワード");
}
else {
/* 文書情報を名前指定して設定 */
ex.setDocInfByName(docinfname);
}

if( docinfname == null ) {
if( false ) {
/* 40ビットセキュリティの指定 */
ex.setSecurity40("open", "security",
true, true, true, true);
}
else {
/* 128ビットセキュリティの指定 */
ex.setSecurity128("open", "security",
AutoExRemote.SEC128PRINT_DISABLE,
AutoExRemote.SEC128ACC_DISABLE,
AutoExRemote.SEC128COPY_DISABLE,
AutoExRemote.SEC128DOCCHANGE_DISABLE);
}
}
```

```

}
else {
  /* 文書情報を名前で指定して設定 */
  ex.setDocInfByName(docinfname);
}

if( docinfname != null ) {
  /* 文書情報及びセキュリティを名前で指定して設定 */
  ex.setDocInfAndSecurity(docinfname);
}

if( false ) {
  /* スタンプ(名前)の指定 */
  ex.addStamp("stamp1");
}

/* Web用に最適化の有無 */
ex.setFastWebView(true);
}

/* プリンタ名の指定 */
ex.setPrinter("YSS PDF Converter XP");

/*****
変換前の別のタスクの処理に対するタイムアウト(秒)の設定
*****/
timeoutsec = 60 * 60;
timeoutsec = AutoExRemote.TIMEOUT_INFINITE;
ex.setBeforeTimeoutSec(timeoutsec);

/*****
変換時間に対するタイムアウト(秒)の設定
*****/
timeoutsec = 60 * 60;
timeoutsec = AutoExRemote.TIMEOUT_INFINITE;
ex.setTimeoutSec(timeoutsec);

/*****
ファイル送信から受信までのタイムアウト(ミリ秒)の設定
*****/
timeoutsec = 60 * 60 * 1000;
timeoutsec = AutoExRemote.TIMEOUT_INFINITE;
ex.setTransTimeoutSec(timeoutsec);

/* PDF変換 */
outpdf = ex.convert(src, pdf);

%>
<!DOCTYPE HTML PUBLIC "-//W3C//DTD HTML 3.2 //EN">
<HTML>
<HEAD>
  <TITLE>My sample for PDF</TITLE>
</HEAD>
<BODY bgcolor="WhiteSmoke">
  <CENTER>
    <H2>My sample for PDF</H2>
    <TABLE border>
      <TR>
        <TH align="right" nowrap>
          出力PDFファイル
        </TH>
        <TD align="left" nowrap>
          <%= outpdf %>
        </TD>
      </TR>
    </TABLE>
  </CENTER>
</BODY>
</HTML>

```

プログラム実行

準備

実行させるための準備の手順を説明します。

サンプルファイルの用意

1. intra-mart サーバが稼働中の場合は停止状態にします。
2. 転送したクラスファイルをAppRuntime の動作するService-Platform をインストールしたディレクトリ内の doc/imart/WEB-INF/classes/myapp ディレクトリに保存して下さい。
3. intra-mart サーバを起動します。

メニュー設定

1. テナント管理者でログインし、以下のメニューを設定します。
2. [テナント管理]-[メニュー]画面を開きます。
3. フォルダを作成します。

メニューフォルダの編集		
メニューフォルダID *	5i7j7cume8ghkn1	
メニューフォルダ名 *	日本語 *	IM-PDFAutoConverter
	英語	IM-PDFAutoConverter
	中国語	IM-PDFAutoConverter
アイコン画像	☒ ファイルパス コンテキストパス配下のURLを入力してください。	
	☐ CSS Sprites imui://csssprites/ クラス名を入力してください。	
更新		

4. URLに、convert.jsp を設定し、メニューを追加します。

メニューアイテムの編集

メニューアイテムID * 5i7j7cuooodion1

メニューアイテム名 *

日本語 *	convert
英語	convert
中国語	convert

URL * convert.jsp 権限設定

呼び出し方法 GET

引数

+ 行追加 - 選択行削除

キー	値
----	---

アイコン画像

☒ ファイルパス コンテキストパス配下のURLを入力してください。

☐ CSS Sprites imui://csssprites/ クラス名を入力してください。

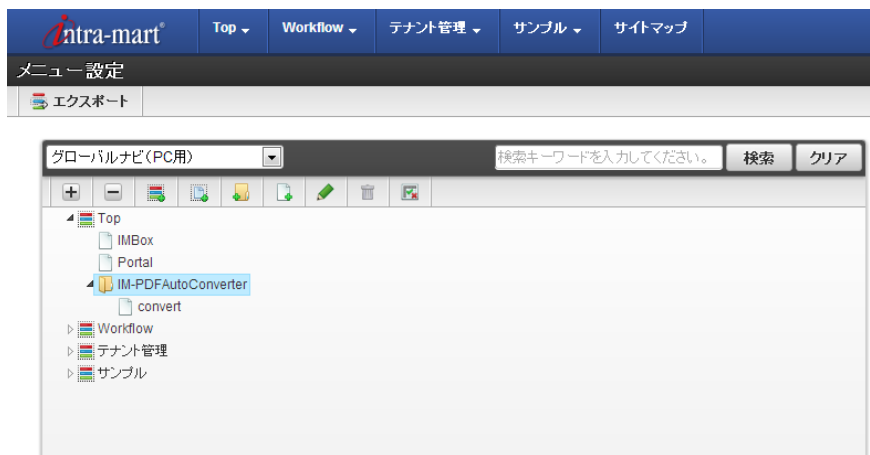
IFRAME表示 ☐

ポップアップ表示 ☐

説明

更新

5. メニュー設定は完了です。



プログラム実行

メニューで『convert』を選択して下さい。作成したJSPファイルが実行されます。

JSP の実行エラー (コンパイルエラー) になってしまった場合には、エラーメッセージの内容に従いJSP プログラムを修正してください。

JSP プログラムが正しく動作しているにもかかわらず実行時エラーになってしまう場合は、エラーの内容にしたがって環境を正しく構築して下さい (環境を変更した場合は、サーバの再起動が必要になる場合があります)。

確認

プログラムが正しく実行されると IM-PDFAutoConverter for Accel Platform の C:/temp ディレクトリに out.pdf というファイル名のPDF ファイルが作成されます。

このファイルがPDFビューア (Adobe AcrobatReader など) で正しく表示できればすべての処理が正しく行われたことになります。

エラーコード

目次

- [エラーコード一覧](#)
- [その他メッセージ一覧](#)

エラーコード一覧

ステータスコード	エラー内容
-1	SOAPでの通信処理でエラーが発生した場合
1	致命的エラーが発生した為、除外リストに追加しました。
11	関数パラメータ不正です。
12	コマンド引数が不正です。
13	必須パラメータが指定されていません。
20	ファイルが開けません。
21	ファイル読み込みエラーです。
22	ファイル書き込みエラーです。
23	データが不正です。
24	プロセス起動エラーです。
25	ディレクトリアクセスエラーです。
26	印刷処理エラーです。
27	パスワードエラーです。
28	ライブラリがロードできないか、関数が見つかりません。
29	起動したプロセスがエラー終了しました。
30	正しくセットアップされていません。
31	システムコールエラーです。
32	ライセンスエラーです。
33	画像処理エラーです。
34	0割が発生しました。
35	計算エラーが発生しました。
200	内部エラーが発生しました。
201	メモリエラーです。
601	既に起動されています。
602	ターゲットフォルダが存在しません。
603	プリンタが見つかりません。
604	変換処理がタイムアウトしました。
605	変換モジュールが正常を返しましたが、出力がありませんでした。
606	変換モジュールが正常を返しましたが、出力サイズが0 でした。
607	拡張子がない為、処理しませんでした。
608	デフォルトの除外拡張子の為、処理しませんでした。
609	変換対象拡張子でない為、処理しませんでした。

ステータスコード	エラー内容
610	後処理DLL がエラーを返しました。
611	変換モジュールがエラーを返しました。※ノートの内容をご参照ください。
612	この拡張子は、シェル(print/printto)印刷をサポートしていません。
613	多重起動監視でタイムアウトが発生しました。
614	変換対象のファイルサイズが0 です。
701	変換対象のページがありませんでした。
751	ワード文書変換エラー
752	ワード環境設定エラー
753	ワード初期化エラー
754	ワード文書オープンエラー(パスワード付きか、存在しない可能性があります)
755	ワードプリンタ設定エラー
756	ワード印刷時エラー
757	ワードリンク情報解析エラー
801	エクセル文書変換エラー
802	エクセル環境設定エラー
803	エクセル初期化エラー
804	エクセル文書オープンエラー(パスワード付きか、存在しない可能性があります)
805	エクセルプリンタ設定エラー
806	エクセル印刷時エラー
807	エクセルヘッダフッタ操作時エラー
851	パワーポイント文書変換エラー
852	パワーポイント環境設定エラー
853	パワーポイント初期化エラー
854	パワーポイント文書オープンエラー(パスワード付きか、存在しない可能性があります)
855	パワーポイントプリンタ設定エラー
856	パワーポイント印刷時エラー
861	イメージ変換エラー
871	一太郎文書変換エラー
9998	EOF エラーです。
9999	予期しないエラーが発生しました。



コラム

611のエラーに関して

WindowsServer2008 以降を利用されている場合は
インストールマニュアルの「5【重要】Windows Server xxxxx における必須の設定」をご確認ください。

その他メッセージ一覧

番号	メッセージ	説明
1	致命的エラーが発生した為、除外リストに追加しました。	inフォルダからendフォルダのファイル移動時にエラーが発生した場合にこのメッセージを出力します。
2	正しいライセンスを確認しました。	コマンドモード、サービスモード起動時に、ライセンスが確認できない場合、自動変換プログラムは終了せずに一定間隔で、ライセンスをチェックします。この時正しいライセンスが確認できた場合にこのメッセージを出力します。
3	サービスモードを開始しました。	サービスモードが開始された場合に出力します。
4	サービスモードを終了しました。	サービスモードが終了された場合に出力します。
5	コマンドモードを開始しました。	コマンドモードが開始された場合に出力します。
7	イメージ変換OCRのライセンスが確認できません。	OCRの指定は無視されます。イメージ変換オプションで、OCRのオプションが指定されていて且つ、イメージ変換OCRのライセンスが確認できない場合に出力されます。このメッセージが出力された場合はOCRの指定は無視され、実行されません。
8	印刷するデータが無い為、シートをスキップしました。	一太郎文書内に、空のシートがある場合に出力します。
9	一太郎文書でない為、シートをスキップしました。	一太郎文書内に、一太郎のメインシート及び子シート以外のシート (ワード等)が、存在する場合に出力します。

目次

- [原因と対処一覧](#)

原因と対処一覧

事象	原因	対処方法
java.lang.NoClassDefFoundError が発生する	クラスパスの設 定が正しくない	インストールガイドに従ってクラスパスを設定して下さい。
java.lang.UnsatisfiedLinkErrorが 発生する	ネイティブライ ブラリ(DLL)を 呼び出せない	Windows の場合は環境変数PATH にライブラリのパスを設定して下さい。Solaris ま たはRedhat の場合は、環境変数LD_LIBRARY_PATH にライブラリのパスを設定し て下さい。ライブラリのパスに関しては、インストールガイドを参照して下さい。
エラーコード 32 が返される	ライセンスが不 正または有効 期限切れです	PDFオートコンバータEX のライセンスを正しく設定して下さい。



コラム

対処方法を試したら事象が解決しない、上記以外の事象が発生した場合は、サポート窓口までお問い合わせください。

サポート

弊社では、Web にて弊社製品に対するサポートおよび技術情報の公開を行っております。

当製品に関して不明な点などがございましたら、下記URL にてホームページにアクセスしていただき、情報検索または弊社サポート窓口までご相談下さい。

intra-mart Developer Support Site アドレス

<http://www.intra-mart.jp/developer/index.html>

